特集2

連続テレビ小説「おかえりモネ」からみえる林業の世界

登米町森林組合（とよままち）
参事　竹中 雅治
（登米市森林管理協議会ＦＭ認証材流通事務局）

写真提供 NHK

連続テレビ小説「おかえりモネ」（月～※土 前8：00 NHK総合ほか ※土曜日は1週間の振り返り）、ご覧頂いていますでしょうか？

舞台は宮城県。清原果耶（きよはらかや）さんが演じるヒロインの永浦百音（ながうらももね）（愛称＝モネ）は気仙沼湾の亀島で生まれ育ち、高校卒業後に登米市（とめし）の米麻町（よねま）森林組合に就職します。下宿先の家主で組合の代表も務める地元の有力な山主や森林組合の同僚、地域の人たちと触れ合いながら成長するモネは、未来がわかる天気予報に興味を持ち、気象予報士を目指す事になります。またモネの実家が営む牡蠣の養殖業についても描かれ、森と海のつながりの大切さも描かれています。

林業という営みがドラマで取り上げられる、ましてやヒロインが森林組合の職員を演じるというのは初めての事ではないでしょうか。

ドラマを通して全国の林業に光を

ドラマの制作にあたり私は「林業考証」を担当させていただきました。きっかけは一昨年頃、スタッフの方々がドラマづくりの検討にあたって林業について調べる中で、登米町森林組合のホームページを観て頂いただいた事のようでした。以降何度となく森林をご案内しているうち、昨年5月に朝ドラの制作発表があり、いままで対応してきた経緯から私に林業考証の依頼がありました。その時までまさか朝ドラとは知らず、驚きと喜びと、これからどのように対応していけばよいのだろうというとまどいが交錯しました。

林業考証とはなにか？専門的な助言や事実関係の確認、資料の提供、そして打合せや収録への参加などが主な業務となりますが、務める中で私が一番大切にした事は、登米市を舞台としながらも、このドラマを通じて全国の林業に光が当たるようにスタッフの方々とお話を積み重ねていくことでした。ドラマをご覧になる方は林業の知識など無い方が大半でしょう。ですから専門的な用語や資料をなるべくかみ砕いてスタッフの方々にお伝えしたり、関連する事柄にも思いが巡るようにお話を積み重ねてきたつもりです。スタッフの方々は私たち林業人の話にしっかりと耳を傾けて頂き、また自らも林業について学ばれてドラマづくりに挑まれていました。ですからドラマという物語の中に、林業の要素が沢山組み入れられています。

それではドラマの内容を振り返りながら、登米地域で行われている林業を事例にして詳しくみていきましょう。

こころと身体を元気にする取組
～森林セラピー～

「どうもどうも～、こ～んにちは～」という大きな声が森に響きわたるラフターヨガのシーンはとても印象的でしたね。「森林セラピー」は森林浴の効果を科学的に解明して、心と身体の健康に活かそうという取組です。科学的に、とはどういうことか？　森林と都市部での比較評価により、例えば心拍の「ゆらぎ」の測定によって森林ではリラックスした時に高まる「副交感神経活動」が昂進（こうしん）するなどが確認されています。このような評価試験を行い効果が確認された地区が森林セラピー基地として認定され、全国に65箇所あります。

全国の森林セラピー基地では、その土地らしい体験プログラムが企画されているほか、地元の旬

写真１　森林セラピー基地「登米ふれあいの森」

の食材を使ったお弁当の提供などが行われている所もあり、ヘルスツーリズムを気軽に楽しむ事ができます。登米市にも森林セラピー基地「登米ふれあいの森」があり、ラフターヨガは地元の高齢者の方々の健康づくり講座の一環として取り入れているものでした。

みなさんの近くにも森林浴を楽しめる場所がありますので、ぜひ足を運んでくださいね。

リンク先：https://www.fo-society.jp/therapy/index.html

組手什による震災復興支援

「何にでもなる魔法の材料」として紹介された「組手什（くでじゅう）」は、ドラマの中で椅子や本棚、盆棚にと自在に組み立てられていましたね。この組手什は愛知県の方々によって開発され、その後鳥取県と共に普及がなされていきました。転機は東日本大震災、当時の避難所での生活はプライバシーを確保する間仕切りがなく、また避難所生活が長期化することが懸念されていました。そこで国土緑化推進機構の緑の募金使途限定募金を活用して愛知、鳥取、そして栗駒と登米で作られた組手什が避難所へと寄贈されました。

組手什はちょっとしたコツを理解すれば子供から年配の方まで簡単に組み立てる事が出来るので、組立を行う中で様々な活用アイデアが出てきました。例えば子どもが勉強する為の座卓がないという事でその場で文机をつくったり、情報スペースとして配布物を並べたり掲示ができる棚がつくられる等、避難所で必要なものが次々と作られていきました。まさに「何にでもなる魔法の材料」ですね。

ドラマをご覧になった方から、東日本大震災のとき避難所で組手什の棚を使い今の住まいでも使っていますよ。というお電話を頂きました。また仮設図書室で組手什書架を利用頂いた名取市図書館からも震災を振り返る講座開催のお話があり、ドラマを通して震災復興と防災について考える機会が出来たことがとてもうれしかったです。

リンク先：https://forest-style.jp/news/001102.html

写真２　避難所への組手什の寄贈

広葉樹の活用と太陽熱木材乾燥庫

売れ残りがちな広葉樹を活用する事業を考えるよう指示されたモネは、学童机をナラ材で作って売り込む事を思いつきましたね。登米市でもこれ

写真３　学童机「まなび」

に似た取組が行われていました。全国各地で「ナラ枯れ」の被害が深刻化しつつあり、さらに東日本大震災にともなう放射性物質汚染によって椎茸原木となるナラ材が使用出来ない事態となりました。そこでナラ材を有効に活用すべく、登米町森林組合が中心となり産官学による協議会を設立して、ナラ材を天板に活用した学童机「まなび」を開発、登米市内のすべての小中学校で採用頂きました。

リンク先：https://spark.adobe.com/page/x2GO4/

またドラマでは木材の乾燥に時間がかかり納期に間に合わない事がわかり、モネは理科の教科書で蒸発の仕組みを学び直した事を活かして、ビニールハウスで乾燥を早める事を思いつきましたね。太陽熱を利用するのはよいアイデアですが、もっと言えば、モネは温度が高く湿度が低い風を送り続ければ洗濯物は早く乾く事を理解したように、効率的な乾燥には温度と湿度と風の3要素が大事です。登米町森林組合には「太陽熱木材乾燥庫ＴｏＳＭＳ」があり、自然乾燥とＴｏＳＭＳ、乾燥機を併用して高品質な木材を短時間で、環境への負荷をなるべくかけずに生産しています。

リンク先：https://forest100.jp/solar/

写真４　太陽熱木材乾燥庫 ToSMS

海とつながる登米の森
～ＦＳＣ森林認証～

モネは気象に関心を持つ事で、森も海も水を介してつながっている事を自身の生活や仕事を通して経験から学んでいきました。海とつながる登米の森は、どのような森なのでしょうか。平成28年登米市では市有林2，717haでＦＳＣ®森林認証を取得して以来、現在個人所有林等を含めて9，167haと民有林面積の47％が認証林となっています。地域をあげて森林認証に取り組むことにより、適切な森林管理によってＳＤＧｓにある「陸の豊かさ」と「海の豊かさ」を守りつつ、認証材流通の一元管理によって木材の需要拡大を両立しています。またこの取組は林野庁から林業成長産業化モデル事業として指定を受けて、さらなる拡充を行っているところです。

リンク先：https://forest100.jp/FSC/

「おかえりモネ」が私たちに問いかけていること

林業考証という仕事を通じてドラマの中のモネという新人の森林組合職員と接してきましたが、モネは私に林業人としての大切な事を思い起こさせてくれました。

モネは常に使う人の目線でその人の気持ちに寄り添い事を進めていきます。たどたどしくとも自ら考えて課題を解決しながら、森林作業従事者や木工職人さんの心に働きかけて人を動かし、物を造り上げていきます。今、森林整備や製材加工業が大規模集約化していく中で、どうかすると使い手の姿が見えなくなってしまいます。サプライチェーンの構築という言葉が林業界でもよく聞かれるようになりましたが、単に木材を受け渡していくということではなく、共創していく事の大切さを改めて考えさせられました。

林業を通して森の豊かさと森と海のつながりを知ったモネが、その経験を活かして気象予報士として活躍する姿を楽しみに、これからもドラマを見続けたいと思います。